

■ 開催概要

ゴーギャンとポン=タヴァンの画家たち – フランス・ブルターニュの光 –

Gauguin et l'école de Pont-Aven

1886年の夏、ポール・ゴーギャン（1848-1903）は、最終回となった第8回印象派展への出品を終えると、フランス・ブルターニュ地方の小村ポン=タヴァンへと向かいました。変化に富んだ明るい光にあふれ、古く独特な伝統文化が色濃いこの土地に魅せられて、村にはすでに多くの画家たちが集っていました。若々しいエネルギーと大胆不敵な野心に満ちた芸術の冒険が、今始まろうとしていたのです。

彼らは、後に「ポン=タヴァン派」と呼ばれ、大きな反響を巻き起こしながら、20世紀の美術を切り開く光となりました。そしてゴーギャンは、この地で楽園のイメージに出会います。彼にとっての楽園は、南の島ではなく、このポン=タヴァンから始まったのです。本展では、印象派を超える新たな絵画を求めた、巨匠ゴーギャンとポン=タヴァン派の画家たちの活動を紹介します。

フランスのカンペール美術館、ブレスト美術館、デンマークのニイ・カールスベルグ・グリプトテク美術館等から、ゴーギャン12点を含む、エミール・ベルナール、ポール・セリュジエ、モーリス・ドニなど27作家による全74点を展観します。

日本を代表するゴーギャン作品であるとともに、ゴッホとの共同生活の時期に描かれたことでも有名な《アリスカンの並木路、アルル》（東郷青児記念 捐保ジャパン日本興亜美術館蔵）も特別公開されます。

【本展の見どころ】

展覧会は4つの章から構成されます。ゴーギャンと仲間たちの歩みに沿って、『第1章 1886年：ゴーギャンの最初の滞在』『第2章 総合主義の創出』『第3章 ル・プールデュでの滞在とグループの拡大』『第4章 ブルターニュでの最後の滞在、そして最後の仲間たち』の各章をたどるうちに、絵画は外界の光を写すことから、人の内面世界の表現へと舵を切って行きます。

美術史が教える、「印象主義」から「総合主義」や「象徴主義」「ナビ派」へ、といった大きな転換の流れに立ち合うとともに、ゴーギャンと仲間の画家たちそれぞれの個性や才能の輝きに出会うことが、本展の見どころといえます。風光明媚で知られるフランス・ブルターニュ地方を、絵画でめぐる旅として楽しむこともまた、その魅力のひとつでしょう。

会場：福井県立美術館

会期：2015年4月17日（金）～5月31日（日）

休館日：5月7日（木）、18日（月）

開館時間：午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

*4月17日は午前10時～

主催：福井県立美術館

共催：福井テレビ

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

企画協力：ホワイトインターナショナル

■ 料金：

一般 1000円（前売り・団体 800円）

高・大生 700円（団体 560円）

小・中生 500円（団体 400円）

*団体は20名以上。

*学生の方は学生証の提示が必要です。

*障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。

■ 前売券販売：4月1日～16日

福井県立美術館、ベル、パリオ、エルパプレイガイド、武生楽市、JTB各店舗、

コンビニ端末：ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルKサンクス（JTBチケット商品番号：0239720）

■ 当日券販売：4月17日～5月31日

福井県立美術館、JTB各店舗、コンビニ端末：ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルKサンクス（JTBチケット商品番号：0239721）

■ 関連イベント

[学芸員によるギャラリートーク]

4月25日（土）、5月2日（土）各午前11時～ 展示室にて

*本展観覧券が必要です

[見どころ解説会]

鑑賞のツボを学芸員が20分程度で分かりやすく解説します。

◎会期中の土曜、日曜、祝日 午前11時～ 講堂にて

◎ただし4月25日（土）、5月2日（土）は開催しません。

*聴講無料

[同時開催]

テーマ展「新収蔵品／生誕150年記念 島田墨仙と近現代日本画」

*本展観覧券にてご覧いただけます

【お問い合わせ】

福井県立美術館

〒910-0017 福井県福井市文京3丁目16-1

TEL: 0776-25-0452 FAX: 0776-25-0459

E-mail: finearts@pref.fukui.lg.jp

HP: <http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>